

令和4年3月時点

【伊佐市・湧水町版】

川内川 水防災河川学習プログラム

小学校5年生
社会

「自然災害とともに生きる」

○目次

1.学習指導要領における第5学年の目標	1
2.学習指導要領における単元の内容	1
3.第5学年の評価の観点の趣旨	3
4.内容のまとめりごとの評価基準	3
5.川内川学習プログラムにおける単元の目標	4
6.学習のねらい	4
7.授業の構成	4
8.指導計画	5
○単元「自然災害とともに生きる」指導計画	5
9.各時間の内容	8
○「自然災害と国土の自然条件」「くり返す自然災害」(第1,2時)	8
○「大津波からくらしを守るために」(第3時)	12
○「大地震からくらしを守るために」(第4時)	16
○「さまざまな自然災害からくらしを守るために」(第5時)	20
○★「風水害からくらしを守るために」	24
○「まとめる」(第6時)	20

○川内川水防災河川学習プログラム「自然災害とともに生きる」

1.学習指導要領における第5学年の目標（学習指導要領※より抜粋）

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

※文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」

2.学習指導要領における単元の内容（学習指導要領※より抜粋）

(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現すること。

- 我が国では，国土の地形や気候などとの関係から地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害などの様々な自然災害が起こりやすいこと，自然災害はこれまで度々発生しこれからも発生する可能性があることなどを基に，国土の自然災害の状況について理解する。
- 国や県などは，砂防ダムや堤防，防潮堤の建設，津波避難場所の整備，ハザードマップの作成など，自然災害の種類や国土の地形や気候に応じた対策や事業を進めていることなどを基に，国土の自然災害への対策や事業について理解する。
- 社会的事象の見方・考え方を働かせ，国土の自然災害の状況について，例えば，これまでに我が国においてどのような自然災害が，いつどこで発生したか，自然災害による被害を

どのように減らす対策をとっているかなどの問いを設けて調べたり，自然災害と国土の自然条件を関連付けて考えたりして，調べたことや考えたことを表現する。

- 我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて，自然災害が発生する理由や，国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え，文章で記述したり，白地図や年表，図表などにまとめたことを基に説明したりする。
- 自然災害が発生しやすい我が国においては，日頃から防災に関する情報に関心をもつなど，国民一人一人の防災意識を高めることが大切であることに気付くように配慮することが大切である。

※文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編」

3.第5学年の評価の観点の趣旨（参考）※

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解しているとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめている。	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について，我が国の国土に対する愛情をもち産業の発展を願う国家及び社会の将来の担い手として，主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

※文部科学省（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」より抜粋

4.内容のまとめりごとの評価規準※

○知識・技能

- ・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
- ・森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。
- ・関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているとともに，公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。
- ・地図帳や各種の資料で調べ，まとめている。

○思考・判断・表現

- ・災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現している。
- ・森林資源の分布や働きなどに着目して，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現している。
- ・公害の発生時期や経過，人々の協力や努力などに着目して，公害防止の取組を捉え，その働きを考え，表現している。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について，主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2020）「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（社会）」を参考に作成。

5.川内川学習プログラムにおける単元の目標

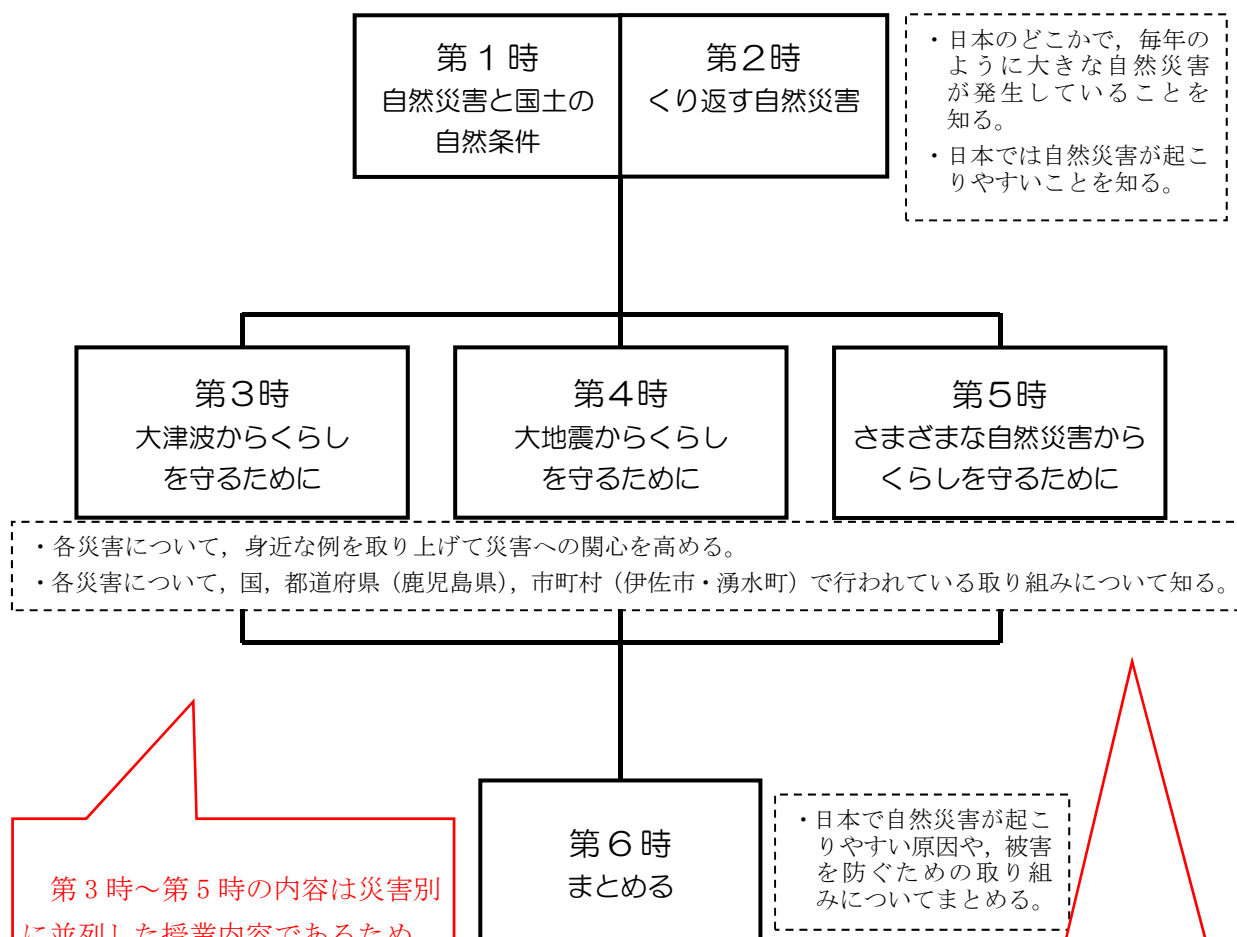
日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、伊佐市・湧水町や身近な川内川を事例として取り上げ、国（川内川河川事務所）や都道府県（鹿児島県）、市町村（伊佐市・湧水町）の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

6.学習のねらい

平成 18 年 7 月洪水時の経験から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。

7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは 6 時間で構成しています。



第3時～第5時の内容は災害別に並列した授業内容であるため、各時限の位置づけがわかりやすいようにフロー形式で示すように変更した。

川内川流域に暮らす児童にとって最も身近な災害である「風水害」について学ぶ時間を、可能であれば1時間確保していただきたいと思います。

本プログラムでは、この追加の1時間を確保するために、導入の時間を1時間分に短縮した計画を掲載しています。

8.指導計画

○「自然災害とともに生きる」指導計画（全6時間）

	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価基準／評価方法
自然災害と国土の自然条件 1時間	日本で発生した自然災害の種類や被害の様子、発生場所に着目して、様々な自然災害の発生と国土の自然条件との関係や、自然災害が国民の生活に及ぼす影響について捉える。	○近年発生した自然災害に関する写真や地図などの資料を読み取り、自然災害の発生と国土の自然条件との関係について話し合う。 ◆日本の国土では、各地の地形や気候の特色によって、土砂崩れや川のはんらん、雪害など、様々な自然災害が発生していること。大規模な災害が発生すると、広範囲に渡って人々の生活に大きな影響を及ぼすこと。	①様々な自然災害の写真を、災害の種類や被害の様子に着目して読み取り、気づいたことを話し合う。 ②それぞれの自然災害の発生場所を地図資料から読み取り、白地図やノートなどに整理する。 ③日本で自然災害が多く発生する理由について、国土の気候や地形の特色と関連づけて考え、話し合う。	【知技】 自然災害の種類ごとに、被害の様子や発生場所を資料からの確に読み取り、自然災害の広がりや国土の自然条件との関連性を捉えている。 （発）（ノ）
くり返す自然災害 1時間	日本で発生した自然災害の発生回数や時期に着目して、日本の国土では大規模な自然災害が繰り返し発生していることを理解する。その被害を防ぐ取り組みについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	○日本の自然災害の年表などを読み取り、過去の発生状況からわかったことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。 ◆日本の各地で、大規模な自然災害が繰り返し発生し、たびたび大きな被害に見舞われてきたこと。	①三陸地方で発生した津波被害について、昔と今の写真を比べて気づいたことを話し合う。 ②各種の自然災害の年表を、災害の種類と発生回数・時期に着目して読み取り、わかったことをノートなどに整理する。 ③調べたことや地震予測図などの資料をもとに、今後発生しうる自然災害について予想し、心配なことや必要な対策について話し合う。 ④これまでの学習をもとに、さらに調べたいことを話し合い整理し、学習問題をつくる。 ⑤学習問題についての予想や学習計画を話し合う。	【思判表】 日本の各地で様々な自然災害が繰り返し発生していることを複数の資料から捉え、大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。 （発）（ノ） 【態】 大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについて予想し、それをもとに学習計画を考え、主体的に追究しようとしている。 （発）（ノ）

	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価基準／評価方法
大津波からくらしを守るために 1時間	各地の津波への対策に着目して、国や都道府県が中心となって進める対策や事業の役割を捉える。	○国や都道府県などが進める津波への対策について具体例を見つけて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ◆国や都道府県が中心となって、津波から人々の命や生活を守るための施設の建設や仕組みづくりを計画的に進めていること。津波を直接防ぐ防潮堤の建設だけでなく、住宅地を高台に設ける、避難への備えをしておくといった対策も大切であること。	①国や都道府県などで進めている津波への対策について、教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、ノートなどに整理する。 ②大きな防潮堤でも津波を防ぎきれなかった例、津波に強いまちづくりの例を資料から読み取り、感想やわかったことをノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、今後想定される津波を見据えてどのような対策をとっていけばよいか、それに伴う課題とともに考え、話し合う。	【知技】 津波の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ)
大地震からくらしを守るために 1時間	各地の大地震への対策に着目して、国や都道府県が中心となって進める対策や事業の役割を捉える。	○国や都道府県などが進める大地震への対策について具体例を見つけて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ◆国や都道府県の補助を受けながら、大地震から人々の命や生活を守るための施設の耐震化や情報発信の仕組みの整備を各地で計画的に進めていること。	①国や都道府県などで進めている大地震への対策について、教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、ノートなどに整理する。 ②過去に発生した大地震の被害の例を教科書や資料集などから見つけて調べ、感想やわかったことをノートなどに整理する。 ③整理したことをもとに、今後想定される大地震を見据えてどのような対策をとっていけばよいか考え、話し合う。 ④学習したことを振り返り、津波や地震以外の自然災害にも着目し、その対策や事業について予想する。	【知技】 地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ) 【態】 学習問題に即して調べてきたことを振り返り、さらに調べる必要があることなどを確かめ合い、追究しようとしている。(発)(ノ)

	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価基準／評価方法
さまざまな自然災害からくらしを守るために 1時間	各地の大規模な水害や土砂災害などへの対策や、自然災害の被害を後世に伝える取り組みに着目して、国や都道府県が中心となって進める事業の役割を捉えとともに、防災・減災への意識を高める。	○国や都道府県などが進める大規模災害への対策について、災害の種類別に具体例を見つけて調べ、共有する。 「減災」の考えや取り組みについて話し合う。 ◆各地域で被害が想定される自然災害に応じて、重点的に対策・事業が進められていること。国全体で計画的な対策・事業を行う必要がある一方で、国民一人ひとりが防災への意識を高めることも大切であること。	①国や都道府県などで進めている「水害」「土砂災害」「雪害」「火山災害」への対策について、災害の種類別に教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、ノートなどに整理する。 ②それぞれ整理したことを共有して、気づいたことや共通点について話し合う。 ③「減災」という考え方や、過去の自然災害を語り継ぐ事例について資料から読み取り、災害への対策として自分たちにもできることを考え、話し合う。	【知技】 各種災害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。(発)(ノ)
まとめる 1時間	調べたことを整理して、自然災害と国土の自然条件との関係、国や都道府県などの災害への対策・事業の役割について理解し、自然災害が発生しやすい国土に暮らす一人としての考えをもつ。	○調べたことを自然災害の種類別に表に整理し、相互の事実を関連づけながら、災害が発生しやすい国土の自然条件、災害への対策・事業と自分たちの生活との関わりなどについて考える。 ◆日本の国土では、その自然条件の特色から様々な自然災害が繰り返し発生するため、国や都道府県などが中心となり、国民生活の安全を守る様々な取り組みを計画的に進めてきたこと。自然災害が多い国土に暮らす一人として、各自が防災・減災への意識をもち、災害に備えておくことが大切であること。	①これまでの学習を振り返り、自然災害の種類ごとに、発生場所や関連する国土の自然条件、対策・事業の例を表に整理する。 ②整理した表を横に見て自然災害の発生と自然条件を関連づけたり、表を縦に見て様々な対策・事業を総合したりして、気づいたことや考えたことを話し合う。 ③自然災害と向き合って暮らしていくうえで大切だと思うこと、自分で取り組んでいきたいことを話し合い、最終的な自分の考えをまとめる。	【知技】 これまでの学習を表に整理し、自然災害の発生には国土の自然条件が関連していること、様々な災害から人々の生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解している。(発)(ノ) 【思判表】 自然災害と国土の自然条件を関連づけたら、自然災害の被害と国民生活を関連づけたらして、自然災害への対策・事業の重要性や、自然災害が多い国土で暮らす一人として取り組むべきことを考え、適切に表現している。(発)(ノ)

※本指導計画は、平成 24, 25 年度にさつま町立盈進小学校で作成された試行授業の指導計画案を元に「川内川水防災河川学習プログラム検討会」での議論を経て作成したものを、平成 29 年に告示された学習指導要領に沿って更新したものである。

9.各時間の内容

○「自然災害と国土の自然条件」「くり返す自然災害」（第1,2時）

(1) 本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害とともに生きる」（全 6 時間）の導入の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・導入で自然災害（津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風）の写真を見せる。 ・日本は自然災害が多い国であるかを予想させ、実際に多いことを資料を通して確認させる。 ・なぜ世界に比べて自然災害が多いのか、予想させノートにまとめる。 ・自然災害が多い理由の因果関係を全体で確認する。 ・日本は自然災害が多い国であるのに、死者数が少ないのはなぜか考えさせ学習問題を立てさせる。
(3) 学習方法の工夫	・導入では、最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し、身近な問題として実感させる。 ・我が国の国土には自然災害が起こりやすいが、世界と比べて自然災害の死者数は少ないという点を気づかせ、学習問題につなげさせる。
(4) 本時のねらい	・日本で起こっている様々な自然災害を知る。 ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。 ・自然災害に対する取組みが行なわれていることにつなげる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会 5」P. 204～207 指導書：・教育出版「小学社会 5」教師用指導書 指導編 P. 204～207 ・教育出版「小学社会 5」教師用指導書 研究編 P. 256～259

川内川流域に暮らす児童にとって最も身近な災害である「風水害」について学ぶ時間を、可能であれば 1 時間確保していただきたいと思います。

本プログラムでは、追加の 1 時間を確保するために、1,2 時の導入の時間を 1 時間分に短縮した計画を掲載しています。

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①全国の自然災害の写真	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
②世界全体に占める日本の国土面積の割合 (世界地図)	板書	
③世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)	板書	
④日本の国土の地形 (グラフ)	板書	
⑤「台風はいつごろ近づくの」	板書	
⑥世界の地震の震源の分布	板書	
⑦世界の火山の分布	板書	
⑧日本と世界の川の勾配	板書	
⑨日本と世界の平均降水量	板書	
⑩世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合 (グラフ)	板書	

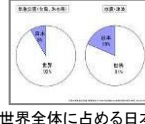
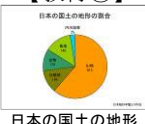
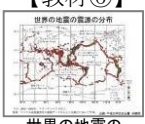
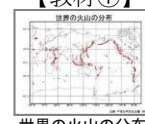
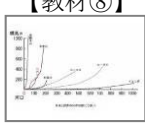
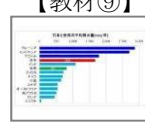
(7) 参考資料

資料名	形式	備考
1 日本と世界の降水量	PowerPoint	付属 DVD (教材データ集) に収録
2 平成 18 年洪水時のまちの高さと川の水面	PowerPoint	
3 日本と世界の川の勾配	PowerPoint	
4 日本の水害・土砂災害の発生回数	PowerPoint	
5 雨が多い季節	PowerPoint	
6 日本周辺のプレート	PowerPoint	
ワークシート 1	PDF Word	
国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 (台風はいつごろ近づくの) < http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/ >	インターネット トサイト	台風の経路
一般財団法人日本気象協会「日本地震マップ」- 地震発生状況を地図とアニメーションで表示- < http://www.quakemap.info/ >	インターネット トサイト	地震発生状況

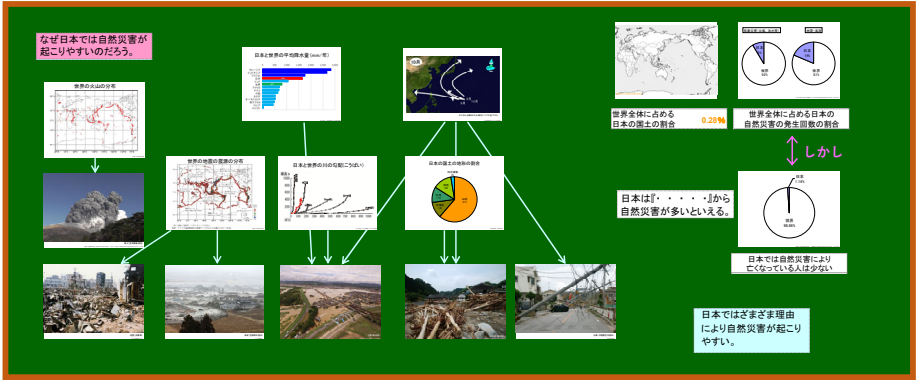
国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどのようなものがあるかを考える。 めあて：なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。	●日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。	【教材①】 	T:最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか。 (C:東日本大震災) T:そうですね。それでは以外にどんな自然災害があるのでしょうか。 (C:大雪、洪水、土砂崩れ…) <u>児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真【教材①】を貼っていく。</u> T:日本には自然災害がこんなにたくさんあります。今日から私たちは何について勉強していくのでしょうか。 (C:自然災害。) T:今日は、これからの授業で自然災害の何について勉強していくか学習問題をつくりましょう。
展開 (30分)	3 なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを、世界と比較する資料で考える。 4 日本で自然災害が多い理由を予想し、ノートにまとめ発表する。 ○海に囲まれている ○山が多い ○雨が多い ○荒れた森林が多い ○台風の通り道 ○地盤プレート ○川が急流 ○山が多いから ○火山が多い 5 発表した予想について、資料で確認する。 6 日本で自然災害が多い理由をまとめる。	●日本で様々な自然災害が発生する理由を気づかせる。 ●様々な自然災害と児童が考えていた理由を矢印で関連付けて、板書を構造化していく。	【教材②】  世界地図 【教材③】  世界全体に占める日本の自然災害の割合 【教材④】  日本の国土の地形 【教材⑤】  「台風はいつごろ近づくの」 【教材⑥】  世界の地震の震源の分布 【教材⑦】  世界の火山の分布 【教材⑧】  日本と世界の川の勾配 【教材⑨】  日本と世界の平均降水量	<u>世界全体に占める日本の国土面積の割合（世界地図）【教材②】を黒板に貼る。</u> T:世界全体に占める日本の国土の割合はどれくらいでしょうか。 (C:0.1%,0.2%…) T:世界全体に占める日本の国土の割合はわずか0.28%です。 <u>世界全体に占める日本の自然災害の割合（グラフ）【教材③】を黒板に貼る。</u> T:でも、世界全体に占める日本の自然災害の割合はこんなにあります。なぜ日本では自然災害が多いのでしょうか。 <u>グループで話し合わせ、予想をノートに書かせる。</u> (C:山が多いから。) T:なぜ山が多いと自然災害が起こりやすいのでしょうか。 (C:山では土砂崩れが起きる。) <u>日本の国土の地形【教材④】を黒板に貼り、山地が多いことを確認する。</u> T:日本の山地の割合は61%です。日本は山地が多いですね。 T:他にはありませんか。 (C:海に囲まれている、台風の通り道、地盤プレート、雨が多い、川が急流…) ※以降、児童がする内容に合わせ【教材⑤～⑨】を黒板に貼り、確認することを繰り返す。 T:日本で自然災害が多い理由をみんなで確認していきましょう。土砂崩れが多い理由は何でしょうか？ (C:山が多い、雨が多い、台風の通り道…) <u>全国の自然災害の写真【教材①】とその災害が起こる理由を示す資料【教材④～⑨】を矢印で関連付ける。</u> T:他の災害についてはどうでしょうか。 ※以降、これを繰り返し、板書を構造化していく。
まとめ (5分)	○日本ではさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。 ○日本は自然災害が多い国であるのにもかかわらず亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。 7「誰がどんな備えをしているのだろう」という学習問題を立てる。	●日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。	【教材⑩】  世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合(グラフ)	T:日本には、自然災害が起こりやすいさまざまな理由があるのですね。 T:では、これだけ自然災害が起こっているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。 <u>世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合（グラフ）【教材⑩】を黒板に貼る。</u> T:日本の占める割合はたったの1.14%です。日本では自然災害が多いのですが、実は亡くなっている人の数は少ないのです。なぜなのでしょう。 <u>自分の考えたことをノートにまとめさせる。</u> (C:なにか対策がある、災害から守ってくれる人がいる…) T:自然災害に対する備えが何かありそうですね。それでは、次の時間からはそのことについて調べていきます。

(9) 板書計画



風水害について学ぶ時間を確保するため、
1 時間分に短縮した授業計画を掲載しています。

(10) 評価のポイント

○知識・技能

自然災害の種類ごとに、被害の様子や発生場所を資料からの確に読み取り、自然災害の広がりや国土の自然条件との関連性を捉えている。

○思考・判断・表現

日本の各地で様々な自然災害が繰り返し発生していることを複数の資料から捉え、大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。

○主観的に学習に取り組む態度

大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについて予想し、それをもとに学習計画を考え、主体的に追究しようとしている。

「8. 指導計画」の「評価基準／評価方法」の内容を記載

○「大津波からくらしを守るために」（第3時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害とともに生きる」（全6時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・津波の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えさせる。
(3) 学習方法の工夫	・国や都道府県などで進めている津波への対策について、教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、調べたことや考えたこと、感想をノートなどに整理させる。 ・整理したことをもとに、今後想定される津波を見据えてどのような対策をとっていけばよいか、それに伴う課題とともに考え、話し合わせる。
(4) 本時のねらい	・各地の津波への対策に着目して、国や都道府県が中心となって進める対策や事業の役割を捉える。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会5」P.208～209 指導書：・教育出版「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.208～209 ・教育出版「小学社会5」教師用指導書 研究編 P.260～261

(2)～(4)は、下記の通り「8.指導計画」の各項目に対応させ、参考にして作成している。

(2) 指導のポイント ← 評価基準／評価方法

(3) 学習方法の工夫 ← 本時の学習活動

(4) 本時のねらい ← 本時のねらい

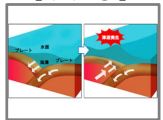
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②津波発生のしくみ	板書	
③岩手県普代村の水門の写真	板書	
④岩手県普代村の防潮堤の写真	板書	
⑤津波避難タワー	板書	
⑥津波ハザードマップ	板書	
⑦津波警報	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①日本経済新聞電子版「岩手県普代村は浸水被害ゼロ、水門が効果を発揮（2011/4/1 7:00）」 〈 http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31023_R30C11A3000000/ 〉	インターネット サイト	岩手県普代村の新聞記事
②2007年（平成19年）8月16日ペルー地震で発生した津波の伝わり方 〈 http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/peru_20070816.gif 〉	インターネット サイト	付属 DVD（教材データ集）に収録 気象庁 HP
ワークシート 2	PDF Word	付属 DVD（教材データ集）に収録

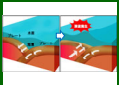
(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 前時のふりかえり	●海の近くでは津波の被害を受ける可能性があることに気づかせる。	【教材①】 	T: 前回の授業では、日本では様々な自然災害が全国各地で毎年のように起こっていることを学習しました。これから自然災害の種類ごとに学習していきます。まずは津波の災害について学習します。知っている津波災害はありますか？ (C: 東日本大震災) T: 津波はどんなところで起こるのでしょうか？ (C: 海の近く、震源地の近くなど) <u>東日本大震災の津波の被害の写真【教材①】を見せる。</u> T: 東日本大震災では、15,800人以上の方が亡くなったそうです。岩手県にある普代村という小さな村ですが、亡くなった人は0人だそうです。なぜでしょうか。 (C: だれかが何かをした、避難するように放送した) T: なにか取り組みがありそうですね
	2 津波が起こるのはどんなところか考える			
展開 (30分)	めあて：津波災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。			
	3 津波のメカニズムを学習し、海沿いの地域では津波に対する備えが必要であることを理解する。 4 国や県、伊佐市・湧水町やその他の市が行っている津波災害の被害を防ぐための取り組みを調べる。 5 調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。 6 災害が起こりそうなときに、私たちに届く情報はどのように伝えられているのかを考える。	●津波が起こるしくみを理解させ、海沿いの地域では津波への備えが必要であることを気づかせる。 ●国土交通省や伊佐市・湧水町が行っていることを捉えさせる。 ●普代村でも同じように災害の被害を防ぐための取り組みを行っていたことを捉えさせる。	【教材②】  【教材③】  【教材④】  【教材⑤】  【教材⑥】  【教材⑦】 	<u>津波発生メカニズム【教材②】を黒板にはる。</u> T: 地震の後には津波が来る可能性があります。海の近くの地域では、津波への備えが必要ですね。 <u><参考>2007年8月16日ペルー地震で発生した津波の伝わり方【参考②】を見せる。</u> T: 津波は地震が起きた場所から輪のように広がり、津波のエネルギーが大きい程遠くまで届きます。過去には、ほとんど地球の裏側にあるペルーで起きた津波が日本まで届いたこともあります。 <u>岩手県普代村の水門の写真【教材③】、岩手県普代村の防潮堤の写真【教材④】を見せる。</u> T: 普代村では1896年に津波により1,000人以上の犠牲者が出ました。そこで岩手県では、二度とこのようなことが起こらないように水門と防潮堤を建設しました。この水門と防潮堤が東日本大震災の津波の被害を防いだのです。 T: 津波災害から命を守るために、どのような取り組みがされているのでしょうか？ (C: 防潮堤、ひなんタワー、津波記念碑を残すなど) <u>津波タワー【教材⑤】を黒板にはる。他児童の発言を分類しつつ黒板にまとめる。</u> T: 鹿児島県で津波が起こってしまったときのために、みなさんが自分や家族を守るためにできることはないでしょうか？ (津波ハザードマップを見る、避難する、情報収集をするなど) <u>津波ハザードマップ【教材⑥】、津波警報【教材⑦】を黒板にはる。</u>
まとめ (5分)	○津波は海底で起きた地震によって起こるので、海沿いの地域は被害を受ける可能性がある。 ○国や都道府県(鹿児島県)、市町村では、津波被害を防ぐための取り組みをしている。 ○津波の情報に注意して、身を守るようにしておく必要がある。	●情報をもとに、一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気づかせる。		T: 国や県、市町村では、津波の被害を減らすための取り組みをしているのですね。津波が発生しそうなときには、みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も、情報を発信しています。津波は地震が原因で発生するので、地震があった後には特に津波情報に注意する必要がありますそうですね。 T: もし津波が発生してしまった時には、国や県、市町村が出した情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって、自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。

被害を減らすための事前対策と、防災情報に関する取り組みで分類する。
防災情報の中でも、事前に確認しておくものとリアルタイムに発信されるものでさらに分類する。

(9) 板書計画

津波災害を防ぐために、どんな取り組みがされているのだろうか。



↓



東日本大震災

被害を減らすために必要な対策をする



高台に移転

一人ひとりができる対策

- ・地震の後には海に近づかない
- ・ひなん訓練をする
- ・情報をチェックしておく

防災情報を早く正確に伝える



ひなん場所を伝える看板

日本は地震が多いので、津波が起きるかのうせいが高い。津波を防ぐための対策をしておく必要がある。

大筋の授業の流れは、各災害について、
①知っている災害を挙げ、身近で起こった例を確認する。
→②その災害はどんな場所で起こっているか考える
→③発生のメカニズムと発生場所との関係を知る
→④災害を防ぐ取り組みについて知る
→⑤自分ができる対策を考える
で構成している。
※指導計画の内容によって一部異なる場合もある。

(10) 評価のポイント

○知識・技能

津波の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。

「8. 指導計画」の「評価基準／評価方法」
の内容を記載

○「大地震からくらしを守るために」（第4時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害とともに生きる」（全6時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えさせる。
(3) 学習方法の工夫	- 国や都道府県などで進めている大地震への対策について、教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ、調べたことや考えたこと、感想をノートなどに整理させる。 - 整理したことをもとに、今後想定される大地震を見据えてどのような対策をとっていけばよいか考え、話し合わせる。
(4) 本時のねらい	各地の大地震への対策に着目して、国や都道府県が中心となって進める対策や事業の役割を捉える。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会5」P.210～211 指導書：・教育出版「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.210～211 ・教育出版「小学社会5」教師用指導書 研究編 P.262～263

(2)～(4)は、下記の通り「8.指導計画」の各項目に対応させ、参考にして作成している。

(2) 指導のポイント ← 評価基準／評価方法

(3) 学習方法の工夫 ← 本時の学習活動

(4) 本時のねらい ← 本時のねらい

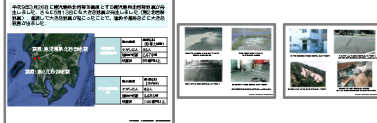
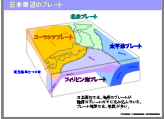
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①熊本地震	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②鹿児島県北西部地震	板書	
③日本周辺のプレート	板書	
④日本／九州の断層マップ	板書	
⑤地震ゆれやすさマップ	板書	
⑥緊急地震速報	板書	
⑦TEC-FORCE の活動	板書	
⑧リエゾンの活動	板書	

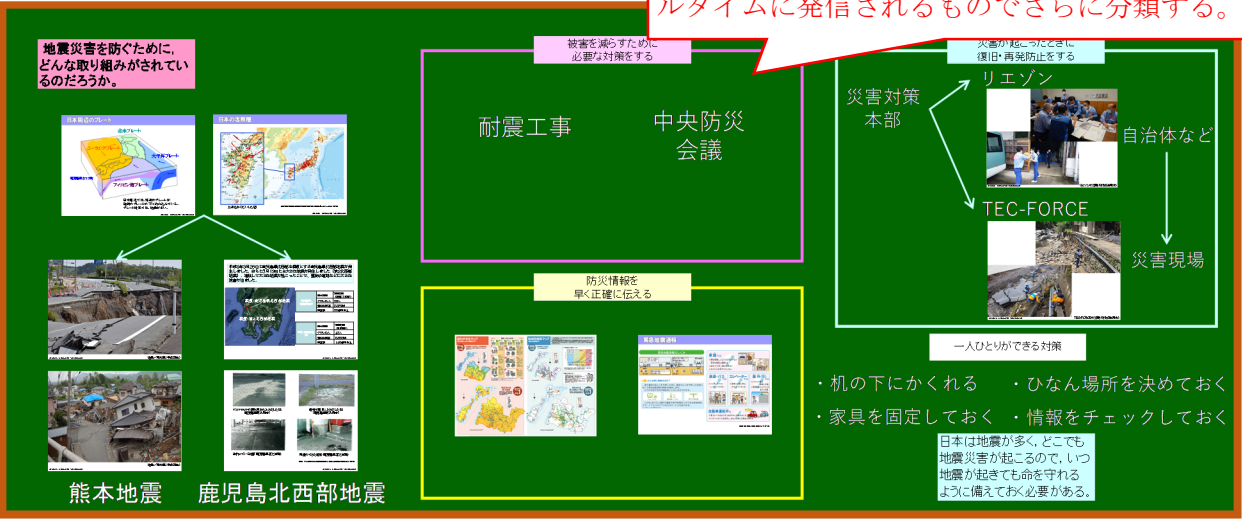
(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①南海トラフ地震	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 前時のふりかえり 2 地震災害が起こりやすい場所はどこか考える 3 地震災害による被害を防ぐための取り組みがされていることに気づく めあて：地震災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。	●地震は日本各地で起きていることに気づかせる。	【教材①】  【教材②】 	T：前回の授業では、津波災害と、被害を防ぐための取り組みについて学習しました。今回は地震災害について学習します。知っている地震災害はありますか？ (C：熊本，東日本，阪神淡路など) <u>熊本地震【教材①】，鹿児島県北西部地震【教材②】を黒板にはる</u> T：地震はどんなところで起こるのでしょうか？ (C：どこでも起こる，プレート・断層) T：地震災害から身を守るために，どんな取り組みをしているのでしょうか。
展開 (30分)	4 地震のメカニズムを学習し，日本は地震が起きやすい国であり，備えが必要であることを理解する。 5 国や県，伊佐市・湧水町やその他の市が行っている地震災害の被害を防ぐための取組みを調べる。 6 調べた結果を発表し，取り組みの機能や仕組みを確認し，分類する。 災害が起こりそうなときに，私たちに届く情報はどのように伝えられているのかを考える。	●地震が起こるしくみを理解させ，日本中どこでも地震への備えが必要であることに気づかせる。 ●国土交通省や伊佐市・湧水町が行っていることを捉えさせる。	【教材③】  【教材④】  【教材⑤】  【教材⑥】  【教材⑦】  【教材⑧】 	<u>地震のメカニズムについて確認する。日本周辺のプレート【教材③】，日本／九州の断層マップ【教材④】を黒板にはる。</u> T：日本のどこでも地震災害が起きる可能性があります（プレート・断層）。最近では，熊本県で大きな地震がありました。 T：地震災害から命を守るために，どのような取り組みがされているのでしょうか？ (C：耐震工事，緊急地震速報など) <u>地震マップ【教材⑤】，緊急地震速報【教材⑥】を黒板にはる。他児童の意見を分類しながら黒板にまとめる。</u> <u>TEC-FORCEの活動【教材⑦】，リエゾンの活動【教材⑧】を黒板にはる。</u> T：津波や地震などの災害が発生してしまった場合は，国で「災害対策本部」がつくられ，被災地の自治体に「リエゾン」を派遣して復旧の手助けをしたり，被災地に直接「TEC-FORCE」を派遣して復旧作業にあたったり，状況調査をしたりします。 T：鹿児島県で地震が起こってしまったときのために，みなさんが自分や家族を守るためにできることはないでしょうか？ (机の下に隠れる，避難する，家具が倒れないようにしておく，地震情報をチェックしておくなど)
まとめ (5分)	○地震はプレートや断層によっておこるので，プレートの境目に位置する日本では地震が多い。 ○国や都道府県（鹿児島県），市町村（伊佐市・湧水町）では，地震災害を防ぐための取り組みをしている。 ○地震の情報に常に注意して，いつでも身を守れるようにしておく必要がある。	●情報をもとに，一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気づかせる。		T：国や県，市町村では，地震の被害を減らすための取り組みをしているのですね。また，地震が発生しそうなときには，みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も，情報を発信しています。 T：もし地震が発生してしまった時には，国や県，市町村が出した情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって，自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。

(9) 板書計画



大筋の授業の流れは、各災害について、

①知っている災害を挙げ、身近で起こった例を確認する。

→②その災害はどんな場所で起こっているか考える

→③発生のメカニズムと発生場所との関係を知る

→④災害を防ぐ取り組みについて知る

→⑤自分ができる対策を考える

で構成している。

※指導計画の内容によって一部異なる場合もある。

(10) 評価のポイント

○知識・技能

地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。

○主体的に学習に取り組む態度

学習問題に即して調べてきたことを振り返り、さらに調べる必要があることなどを確かめ合い、追究しようとしている。

「8. 指導計画」の「評価基準／評価方法」
の内容を記載

○「さまざまな自然災害からくらしを守るために」（第5時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害とともに生きる」（全6時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・各種災害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り，国や都道府県（鹿児島県）が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えるようにする。
(3) 学習方法の工夫	・国や都道府県などで進めている「水害」「土砂災害」「雪害」「火山災害」への対策について，災害の種類別に教科書や資料集などから具体例を見つけて調べ，ノートなどに整理させる。 ・それぞれ整理したことを共有して，気づいたことや共通点について話し合わせる。 ・「減災」という考え方や，過去の自然災害を語り継ぐ事例について資料から読み取り，災害への対策として自分たちにもできることを考え，話し合わせる。
(4) 本時のねらい	・各地の大規模な水害や土砂災害などへの対策や，自然災害の被害を後世に伝える取り組みに着目して，国や都道府県が中心となって進める事業の役割を捉えるとともに，防災・減災への意識を高める。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会5」P.212～213 指導書：・教育出版「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.212～213 ・教育出版「小学社会5」教師用指導書 研究編 P.264～265

（2）～（4）は，下記の通り「8.指導計画」の各項目に対応させ，参考にして作成している。

（2）指導のポイント ← 評価基準／評価方法

（3）学習方法の工夫 ← 本時の学習活動

（4）本時のねらい ← 本時のねらい

風水害については，P.24★「風水害からくらしを守るために」に記載しています。

以下の第5時の授業計画には，風水害を除いた火山・大雪災害のみの内容を掲載しています。

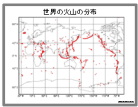
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①噴火被害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②世界の火山の分布	板書	
③日本の活火山	板書	
④噴火警戒レベル	板書	

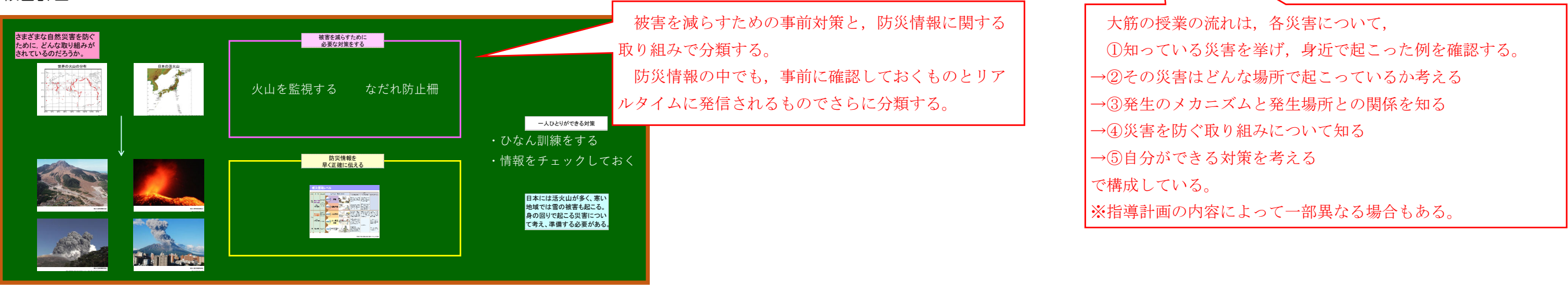
(7) 参考資料

資料名	形式	備考
-	-	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	1 前時のふりかえり 2 噴火・大雪災害が起こるのはどんなところか考える 3 噴火・大雪災害による被害を防ぐための取り組みがされていることに気づく めあて：さまざまな自然災害を防ぐために,どんな取り組みが行われているのだろうか。	●火山の近くでは噴火災害の危険があり、寒冷地域では大雪災害の危険があることに気づかせる。	【教材①】 	T：前回の授業では、地震災害を防ぐための取り組みについて学習しました。今回は今まで学習した災害以外の災害について考えてみましょう。どんな災害があるでしょうか？ (C：火山の噴火、大雪) 噴火被害の写真【教材①】を見せる T：噴火・大雪災害はどんなところで起こるのでしょうか？ (C：火山の近く、寒い所など)
展開 (35分)	4 噴火のメカニズムを学習し、日本は地震が起きやすい国であり、備えが必要であることを理解する。 5 国や県、伊佐市・湧水町やその他の市が行っている噴火・大雪による災害を防ぐための取組みを調べる。 6 調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。	●火山・大雪災害への取り組みを理解し、情報を集めることの重要性に気づかせる。 ●国土交通省や伊佐市・湧水町が行っていることを捉えさせる。	【教材②】  【教材③】  【教材④】 	T：噴火する火山は「活火山」と呼ばれています。日本には多くの活火山があります。 世界の火山の分布【教材②】、日本の活火山【教材③】を見せる T：みなさんの身近にも、活火山がありますね。知っていますか？ (C：桜島、口永良部島、硫黄山など) T：火山や大雪災害を防ぐために、どのような取り組みがされているのでしょうか？ (C：火山を監視する、なだれを防ぐ柵をつけるなど) 噴火警戒レベル【教材④】を見せる T：活火山の中でも活動が活発な火山は、気象庁が常に監視しておいて、噴火が起こりそうかどうかを調べています。もし噴火しそうな状態になったら、登山を禁止したり、周りの住民を避難させたりします。
まとめ (5分)	○活火山が多い日本では、火山の噴火による災害が起こる可能性が高い。 ○国や都道府県(鹿児島県),市町村(伊佐市・湧水町)では、火山被害を防ぐための取り組みをしている。 ○火山や雪の情報に常に注意して、いつでも身を守るようにしておく必要がある。	●情報をもとに、一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気づかせる。		T：国や県、市町村では、火山や大雪の被害を減らすための取り組みをしているのですね。また、火山の噴火や大雪が発生しそうなときには、みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も、情報を発信しています。 T：もし火山の噴火や大雪災害が発生してしまった時にどのような行動をとればよいか、事前に考えておくことで、逃げ遅れる危険を減らすことができます。情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって、自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。

(9) 板書計画



(10) 評価のポイント

○知識・技能

各種災害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り，国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。

「8. 指導計画」の「評価基準／評価方法」
の内容を記載

★「風水害からくらしを守るために」

★「風水害からくらしを守るために」

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害とともに生きる」(全6時間)の展開の時間として位置づける。 <u>なお、教科書に準じた指導計画においては、風水害は第5時で学習する災害のうちの一つであるが、川内川流域に暮らす児童にとっては最も身近な災害であるため、可能であれば1時間分を確保して取り組んでいただきたい時間として位置づけている。</u>
(2) 指導のポイント	・砂防ダムや、放水路など、被害を減らすための取り組みや対策の意味をきちんと抑えるようにする。 ・ハザードマップについても、その意味をきちんと話し合っ、自分がそれを使うことを想定させるようにする。
(3) 学習方法の工夫	・日本で風水害の被害が大きくなる理由について、資料から考え、話し合わせる。 ・風水害からの被害を減らすために、国や都道府県(鹿児島県)、市町村(伊佐市・湧水町)ではどのような取り組みをしているのか、H18年の川内川での洪水を例に挙げながら、資料からわかったことを話し合わせる。
(4) 本時のねらい	・風水害が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情報を集め、読み取り、日本における風水害について理解させる。 ・風水害から国土を保全し国民生活を守るために国や県(鹿児島県)、市町村(伊佐市・湧水町)などが様々な対策や事業を進めていることを理解させる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会5」P.212～213 指導書：・教育出版「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.212～213 ・教育出版「小学社会5」教師用指導書 研究編 P.264～265

(6) 必要なもの

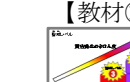
教材名	使用方法	備考
①伊佐市・湧水町の過去の洪水被害の写真	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
②平成 18 年水害写真	板書	
③薩摩川内市での風水害を防ぐ取り組み (写真・イラスト)	板書	
④鶴田ダムの治水機能	板書	
⑤防災ステーション	板書	
⑥平成 18 年洪水の体験談 VTR	視聴	

教材名	使用方法	備考
⑦平成 18 年洪水時の避難者・救助者の声 (ワークシート)	配布	付属 DVD (教材データ集) に収録
⑧避難所の写真 (盈進小学校)	板書	
⑨防災マップ	配布	
⑩土砂災害情報	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
⑪地デジデータ放送	板書	
⑫川内川河川事務所「早よ見やん川内川」 < http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/ >	I C T 板書	付属 DVD (教材データ集) に収録 インターネット
⑬気象庁ナウキャスト	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
⑭警戒レベル	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①台風 (宮古島)	PowerPoint	付属 DVD (教材データ集) に収録
②土石流 (阿蘇)	PowerPoint	
③水害 (福岡県)	PowerPoint	
④水害 (熊本県)	PowerPoint	
⑤集中豪雨 (1 時間降水量 80 ミリ以上) が増加しているようす (グラフ)	PowerPoint	
⑥がけ崩れ工事	PowerPoint	
⑦水位レベル表示 (写真)	PowerPoint	
⑧監視カメラ (写真)	PowerPoint	
⑨防災無線 (イラスト)	PowerPoint	
ワークシート 2	PDF Word	
ワークシート 3	PDF Word	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	1 前時のふりかえり 2 風水害が起こるのはどんなところか考える ○伊佐市・湧水町でも、過去に洪水被害が起こっていることを知る めあて：風水害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。	●川の近くや山の近くでは風水害が起こる可能性があることに気付かせる。	【教材①】  【教材②】 	T：今回は風水害について学習します。知っている風水害はありますか？ （C：R2 球磨川豪雨，西日本豪雨，九州北部豪雨など） T：風水害はどんなところで起こるのでしょうか？ （C：川の近く，土地が低いところ，山の近くなど） 伊佐市・湧水町での洪水被害の写真【教材①】を見せる。 <u>平成 18 年水害写真【教材②】を見せる。</u> T:みなさんが住んでいる地区も，近くに川内川が流れていますね。実際に，過去に大きな洪水が何度も起こっています。
展開 (35分)	3 平成 18 年洪水の体験談 VTR を見て，逃げ遅れないためにはどのようなことをしなければならないかを考える。 4 ワークシートを見て，さつま町で多くの人々を救助しなければならなくなった理由を考える。 ○危機感がなかった。 ○1 人で逃げずに待っていた。 ○呼びかけに応じなかった。 ○見回りが足りなかった。 5 国や県，伊佐市・湧水町やその他の市町村が行っている風水害を防ぐための取り組みを調べる。 ○どのように防災情報を活用すればよいのだろうか。 6 防災マップで災害時に自分はどこへ避難すればいいかを確認する。	●活用できる防災情報を知り，避難に備えることの大切さに気付かせる。 ●国土交通省や伊佐市・湧水町が行っていることを捉えさせる。	【教材③】  【教材④】  【教材⑤】  【教材⑥】  平成 18 年洪水の体験談 VTR ※洪水の体験談は VTR の 3 分 11 秒から始まります。 【教材⑦】  平成 18 年洪水時の避難者・救助者の声 【教材⑧】  【教材⑨】  【教材⑩】  【教材⑪】  【教材⑫】  【教材⑬】  【教材⑭】 	T：風水害から身を守るために，どのような取り組みがされているのでしょうか？ （C：砂防ダム，放水路，防災ステーション，ダムをつくる，防災マップなど） <u>【教材③～⑤】，【教材⑧～⑭】から，児童の発言に合わせて分類しつつ黒板にはる。</u> T：伊佐市・湧水町でも，洪水が起きるたびに様々な取り組みをして，また洪水が起きないようにしてきました。それでも，完全に洪水を防ぐことは難しいのです。 <u>平成 18 年洪水の体験談 VTR【教材⑥】を見せる。</u> T:お話をしてくださった方たちはなぜ逃げ遅れてしまったのでしょうか。 （C:今までの経験上油断をしていたから，災害情報を知らなかったから…） <u>ワークシート【教材⑦】を配る。</u> T:平成 18 年のさつま町の水害では，亡くなられた方は 1 名でしたが，消防や警察に救助された人は 237 名もいました。 さつま町ではなぜ 237 名も救助される事態になったのでしょうか。平成 18 年洪水時の避難者・救助者の体験談から分析して，ノートにまとめましょう。 T:では発表してください。 （C:避難を呼びかけたけど応じてもらえなかった。） T:なぜ応じてもらえなかったのでしょうかね。 （C:これまで大丈夫だったから。危機感がなかったから。） T：もしまた鹿児島県で洪水が起こってしまったときのために，皆さんが自分や家族のためにできることはないでしょうか？ （C：情報をチェックする，避難訓練をしておく，防災マップを見ておくなど） <u>【教材⑧】～【教材⑭】を児童の発言に合わせて黒板に貼る。</u> T:洪水や土砂災害が発生しそうなどときには，このようにいろいろな方法でみなさんへ情報を発信します。情報を集めて避難に備えることが大切です。 <u>防災マップ【教材⑨】を配る。</u> T：おうちの方と防災マップを確認して，避難場所や安全な避難経路を家族で話し合ってみましょう。 T：国や県，市町村では，洪水の被害を減らすための取り組みをしているのですね。また，洪水が発生しそうなどときには，みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も，情報を発信しています。 T：もし洪水が発生してしまった時にどのような行動をとればよいか，事前に考えておくことで，逃げ遅れる危険を減らすことができます。情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって，自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。
まとめ (5分)	○川の近くでは洪水が起こる可能性があり，伊佐市・湧水町でも洪水が起こっている。 ○国や都道府県(鹿児島県)，市町村(伊佐市・湧水町)では，洪水を防ぐための取り組みをしている。 ○事前の準備と情報収集をしなければ，逃げ遅れることもある。	●情報をもとに，一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気付かせる。		

(9) 板書計画

風水害を防ぐために、どんな取り組みがされているのだろうか。

被害を減らすために必要な対策を知る

一人ひとりができる対策

・情報をチェックしておく
・ひなん訓練をする

防災情報を早く知ることが出来る

平成18年川内川の洪水

大人への働きかけとして，家で防災マップについて話し合わせる。
ハザードマップは想定に基づいて作成されており，必ずしも想定通りになるとは限らないことを伝える。

被害を減らすための事前対策と，防災情報に関する取り組みで分類する。
防災情報の中でも，事前に確認しておくものとリアルタイムに発信されるものでさらに分類する。

大筋の授業の流れは，各災害について，
①知っている災害を挙げ，身近で起こった例を確認する。
→②その災害はどんな場所で起こっているか考える
→③発生メカニズムと発生場所との関係を知る
→④災害を防ぐ取り組みについて知る
→⑤自分ができる対策を考える
で構成している。
※指導計画の内容によって一部異なる場合もある。

(10) 評価のポイント

○知識・技能

風水害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り，国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。

○「まとめる」（第6時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害とともに生きる」（全6時間）のまとめの時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・自然災害の発生には国土の自然条件が関連していること、様々な災害から人々の生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解させる。 ・自然災害と国土の自然条件を関連づけたり、自然災害の被害と国民生活を関連づけたりして、自然災害への対策・事業の重要性や、自然災害が多い国土で暮らす一人として取り組むべきことを考えさせる。
(3) 学習方法の工夫	・これまでの学習を振り返り、自然災害の種類ごとに、発生場所や関連する国土の自然条件、対策・事業の例を表に整理する。 ・整理した表を横に見て自然災害の発生と自然条件を関連づけたり、表を縦に見て様々な対策・事業を総合したりして、気づいたことや考えたことを話し合う。 ・自然災害と向き合って暮らしていくうえで大切だと思うこと、自分で取り組んでいきたいことを話し合い、最終的な自分の考えをまとめる。
(4) 本時のねらい	・調べたことを整理して、自然災害と国土の自然条件との関係、国や都道府県などの災害への対策・事業の役割について理解し、自然災害が発生しやすい国土に暮らす一人としての考えをもつ。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・教育出版「小学社会5」P.214～215 指導書：・教育出版「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.214～215 ・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編 P.266～267

(2)～(4)は、下記の通り「8.指導計画」の各項目に対応させ、参考にして作成している。

(2) 指導のポイント ← 評価基準／評価方法

(3) 学習方法の工夫 ← 本時の学習活動

(4) 本時のねらい ← 本時のねらい

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①自然災害に備えて私たちにできること (ワークシート)	配布	付属 DVD (教材データ集) に収録
②湧水町総合防災訓練の写真	板書	
③非常用持出袋 (写真)	板書	
④町内一斉避難訓練 (さつま町) の写真	板書	

(7) 参考資料

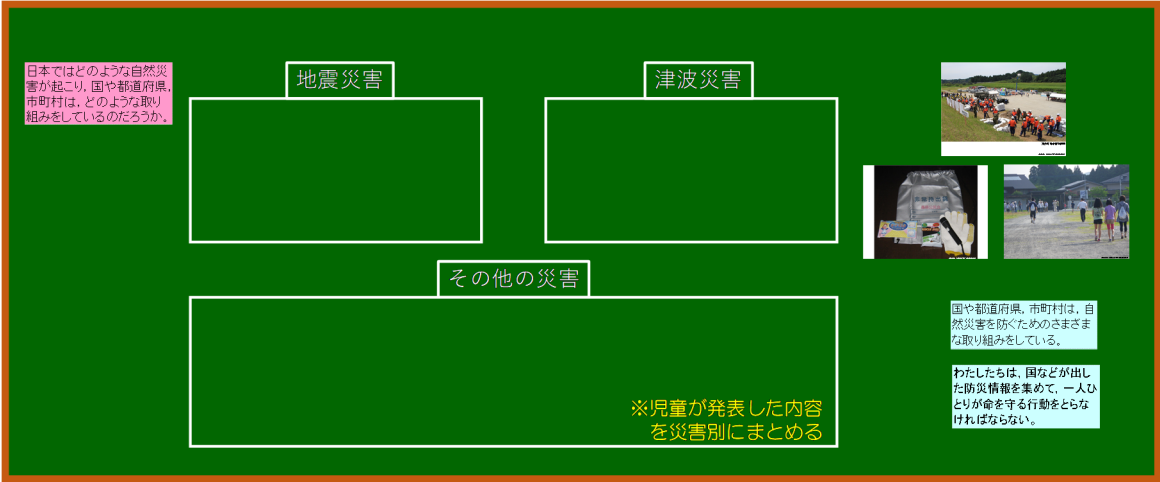
資料名	形式	備考
①非常時持出品カード	PowerPoint	付属 DVD (教材データ集) に収録
②ルートパズル	PowerPoint	
③川内川防災教室	PDF	
ワークシート 4	PDF Word	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	1 前時までに学習したことのふりかえり	●今まで学習した災害についてふりかえり、まとめる準備をさせる。		T：これまで地震，津波，風水害，火山，大雪の5つの自然災害について学習してきました。国や鹿児島県，伊佐市・湧水町では，自然災害を防ぐためにさまざまな取り組みをしていましたね。災害の種類ごとに，ノートにまとめてみましょう。
展開 (35分)	2 これまで学習した災害ごとに，国や都道府県，市町村が行っている防災のための取り組みをまとめる。 3 グループで災害に備えてできることについて話し合い，「災害に備えて私たちにできること」と題したリストを模造紙などに作成し，発表する。	●これまでの学習をふりかえらせ，防災・減災に必要なことを考えさせる。 ●洪水の時は，1人で避難するのは危険なため，2人以上で避難することを指導する。 ●避難勧告等が発令されたり，危険を感じたりした時は，速やかに避難することを指導する。	【教材⑤】	T：どんな取り組みがあったでしょうか。 (災害毎に被害を防ぐための取り組みについてまとめた結果を発表させる。) T：それでも，自然災害は必ず起こります。命を守るためには，どうしたらいいのでしょうか？ <u>自然災害に備えて私たちにできること (ワークシート)【教材①】を配る。</u> T:今からグループで，ワークシートを見たり，これまで学習してきたことを思い出して自然災害に備えて私たちにできることを考えてみてください。 <u>模造紙などの紙にリスト化させ，発表させる。洪水が起こった場合の避難や防災マップについて，家の人と話し合ってきた結果を発表させる。</u>
まとめ (5分)	○伊佐市・湧水町でも平成18年の水害の教訓を生かし，避難訓練など，災害から身を守るための取り組みが行われている。	●国や都道府県，市町村の取り組みに加えて，一人ひとりの備えが重要であることに気づかせる。	【教材⑥】 【教材⑦】 【教材⑧】	<u>湧水町総合防災訓練の写真【教材②】，非常持出袋【教材③】，さつま町避難訓練の写真【教材④】を見せる。</u> T:これは非常持出袋といって，いざというときにすぐに持ち出せるように，避難に必要なものを入れておく袋です。 みなさんも，いざというときに備えて非常持出袋を準備しておきましょう。 T：国や鹿児島県，伊佐市・湧水町の取り組みに加えて，みなさん一人ひとりが防災への知識と心構えを持つことで，自然災害の被害から命を守ることができるのですね。

大人への働きかけがうまくできたかの確認の意味も込め，児童に発表させる。

(9) 板書計画



(10) 評価のポイント

○知識・技能

これまでの学習を表に整理し，自然災害の発生には国土の自然条件が関連していること，様々な災害から人々の生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解している。

○思考・判断・表現

自然災害と国土の自然条件を関連づけたり，自然災害の被害と国民生活を関連づけたりして，自然災害への対策・事業の重要性や，自然災害が多い国土で暮らす一人として取り組むべきことを考え，適切に表現している。

「8. 指導計画」の「評価基準／評価方法」
の内容を記載

<出典一覧>

○第1・2時

全国の自然災害の 写真	○地震(兵庫県)	(財)消防科学総合センター「災害写真データベース」 < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
	○津波(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
	○噴火(宮崎県新燃岳)	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する政府支援チーム (2011)「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
	○台風(沖縄県宮古島市)	宮古島地方気象台提供
世界全体に占める日本の国土面積の割合(世界地図)		樹商事株式会社「世界地図」< sekaichizu.jp >
世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 35) < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm >
日本の国土の地形(グラフ)		総務省統計局「日本統計年鑑」 < http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm >
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 < http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/ >
世界の地震の震源の分布		内閣府「平成 22 年版防災白書」 < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/index.htm >
世界の火山の分布		
世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の割合 (グラフ)		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 8) < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm >

○第3時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真(岩手県普代村)	普代村地域振興室提供
津波警報	気象庁「津波警報・注意報, 津波情報, 津波予報について」 < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html >
2007 年(平成 19 年)8 月 16 日ペルー地震で発生した 津波の伝わり方	気象庁「津波発生と伝播のしくみ」 < http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html >

○第4時

日本／九州の断層マップ	国立研究開発法人 産業技術総合研究所「活断層データベース」 < https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html >
緊急地震速報	気象庁「緊急地震速報～まわりの人に声をかけながら あわてず、まず身の安全を！！～」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew/index.html >
南海トラフ地震／地震が起こるメカニズム	政府 地震調査研究推進本部 < https://www.jishin.go.jp/resource/pamphret/ >
南海トラフ地震	気象庁「南海トラフ ーその時の備えー」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html >

○第5時

噴火被害の写真／桜島・雲仙岳・浅間山 日本の活火山	気象庁「活火山総覧 第4版」 < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/souran/menu_jma_hp.html >
噴火被害の写真／新燃岳	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する支援チーム 「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
噴火警戒レベル	気象庁「噴火警戒レベルの説明」 < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/level_toha/level_toha.htm >

○★風水害からくらしを守るために

集中豪雨(1 時間降水量 80 ミリ以上)が増加しているようす(グラフ)	気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html >
気象庁ナウキャスト	気象庁「急な大雨・雷・竜巻ーナウキャストの利用と防災ー」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nowcast/index.html >
警戒レベル	気象庁「防災気象情報と警戒レベルの対応について」 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/alertlevel.html >

○第6時

自然災害に備えて私たちにできること ○気象警報の種類	気象庁「気象警報・注意報の種類」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/warning_kind.html >
-------------------------------	---

<参考文献>

- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年公示）解説 社会編」
- ・文部科学省（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」
- ・国立教育政策研究所, 教育課程研究センター（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」

お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課

〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2

TEL:0996-22-3271 (代) FAX:0996-22-6907 (代)